



みんなで つくろう 寿の都 寿都町



寿都町基礎データ

総人口	2,645人 (R 6. 4 末現在)	漁獲高	1,308百万円 (R 4 北海道水産現勢)
高齢人口（高齢化率）	40.8% (R 6. 4 末現在)	製造品出荷額	4,705百万円 (R 3 経済センサス)
世帯数	1,561世帯 (R 6. 4 末現在)	卸・小売年間販売額	3,143百万円 (R 3 経済センサス)
人口密度	27.8人／km ² (R 6. 4 末現在)	一般会計規模	5,398百万円 (R 6 当初予算)
面積	95.25km ²	町の木	桜
農業産出額	34百万円 (R 5 年度)	町の花	ハマナス

寿都町の概要

寿都町は、人口2,645人（令和6年4月30日現在）、北海道南西部の日本海に面し、札幌市と函館市のほぼ中央に位置しており、地勢は寿都湾を取り囲むように弓場に形成されております。日本海に面していることから対馬海流（暖流）の影響を受け、同緯度の地域と比較して温暖な気象条件であり、冬季間は降雪量が比較的少ない地域です。

寿都湾の豊かな資源の恩恵を受け水産業を中心に発展してきた寿都町の歴史は、古くはニシン漁を背景に生活が築かれ、当時の建造物である旧歌棄佐藤家漁場、橋本家（旧鯨御殿）や、ニシン漁の安全祈願などのために神社仏閣が建設され5つの寺院が立ち並ぶ寺町通など歴史的建造物が数多く所在しております。また、神社仏閣を身近に感じてもらうために「御朱印巡り」や敷地内での盆踊りイベントなどにも取り組んでおります。

寿都町の産業

はじめに、寿都町の産業については、漁業と水産加工業が基幹産業であり、近年においては、原油価格高騰や海の環境変化に伴う漁獲量等に対する影響など不安定要素を解消すべく、活メ技術の導入など鮮度保持・品質管理の徹底や、放流・養殖も積極的に取り組んでおります。「育てる漁業」の代表として、町の名前にちなみブランド化された「寿かき」は、4月下旬から7月上旬頃に旬を迎える町を代表する特産品の一つとなっております。



牡蠣水揚げ

また、水産加工品の多くは寿都湾で水揚げされた魚介類を活用しており、町内8社の水

産加工業者それぞれが製造する特色ある特産品は本町のふるさと納税返礼品としてまちづくりに大きく寄与しています。

水産業以外では、寿都町の農業は小規模経営が主体となっており、耕地面積が狭いことに加え、高齢化に伴う担い手不足、農業にとって厳しい気象条件であることなどを要因とし、生産性が向上せず、農家数は著しく減少していましたが、これらの課題を打開するため令和元年に天候に左右されることなく、通年型栽培を可能とする「農業振興ハウス」を整備し、令和2年度から新たな特産品として「風のバジル」の栽培を開始しています。

また、風力発電とバイオマスボイラーという再生可能エネルギーを活用した熱源によりハウス内の温度管理を行い、縦型水耕栽培を導入することで、小面積でも効率よく多くの収穫を得られる仕組みとするなど、寿都町の地勢に即した工夫を取り入れています。

「風のバジル」は新たな特産品として定着しつつあり、民間事業者独自でのバジルを使った新商品開発も行われており、地域食材との連携による商品づくりと更なるブランド化が進められております。今後、水産加工業や観光業などと幅広い連携を図りながらバジルを活用した産業の活性化と、まちづくりに繋げていけるような取組を進めていきます。



バジル

再生可能エネルギーの活用

寿都町は「風の町」といわれるように、全国でも有数の強風が吹く町で、「だし風」と呼ばれる強風は、漁業者等にとって大きな悩みの種でしたが、この地域特有の気象を逆手にとり有効活用することを目的に、平成元年に全国の自治体としては初の取組となる風力発電施設を整備しました。平成11年には町の温泉施設への電力供給を目的として風力発電施設1基を設置、平成15年からは、本格的な売電事業を開始し、平成19年、平成23年と発電規模をステップアップしながら増設し、現在では13基（20,560kW）が稼働、市町村で運営している風力発電所の設備としては全国1位であり、町のカントリーサインなどシンボリックな存在ともなっております。

令和5年度には、風力発電など再エネを活用したまちづくりの方向性を掲げたビジョンを策定し、エネルギーの町として新たな一歩を踏み出しました。



浜中野営場から風車

寿都町のイベント

7月には寿都における一大イベントである「寿都神社例大祭」が開催されます。太鼓や笛の音が響き渡る中、神輿や各町内会による花山、子供奴などが行列となり、2日間かけ

て町内を練り歩きます。小さな子どもから大人まで、寿都人のお祭り好きの原点となっております。このほかにも、春には「寿都湾春の海フェスタ&軽トラ市」秋には「すっつ鮭・ホッケフェスティバル&軽トラ市」などを開催しており、旬の幸を使ったオリジナルグルメや、鮮魚の販売など季節ごとの寿都の味覚を堪能できます。



軽トラ市（イベント）

め転出する子どもも珍しくありませんが、都市部と遜色なく基礎学力を身に付けることを可能とすることで、地元の高校に通いながら、多様な進路の選択が実現できる教育環境を構築しております。若年層転出の抑制、将来の町の担い手づくりなどの課題解決に向けた、子育て・少子化施策として積極的に取り組んでおります。



公設民営塾

公設民営塾の運営

北海道寿都高等学校は、寿都町在住者と一部隣接する町村の在住者が通学していますが、少子化が顕著であり、長年にわたって存続が危ぶまれております。

町で生まれ育った子どもたちを、高校卒業まで地域全体で育む環境を整備するためには、北海道寿都高等学校の存続が欠かせないため、町では入学祝金の支給や資格試験に対する助成や通学費助成、エアコン整備など、魅力ある学校運営と家庭の経済負担軽減のため、様々な支援策を講じております。

目まぐるしく変化する社会情勢やグローバル化に対応できる人材を育成、また希望する進学や就職が実現できるよう、質の高い教育を提供するため、平成31年から公設民営塾の運営を開始しました。

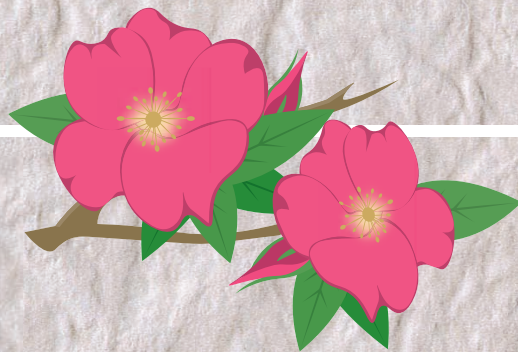
中学卒業と同時に、質の高い学習環境を求

寿都町立寿都診療所

寿都町立寿都診療所は平成17年に道立寿都病院の移管を町が受け家庭医による有床診療所として開設されました。その後平成30年に北海道家庭医療学センターが指定管理者として運営しております。現在は医師4名が在籍しており、充実した医療体制が構築されております。

また、令和4年4月には診療所に併設する形で、「病児保育室なないろ」が開設されました。保育士・看護師・医師等が連携し保育看護を行うことで、子育てしやすい環境が整備され、保護者の仕事と子育ての両立への一助となっております。

寿都町の四季



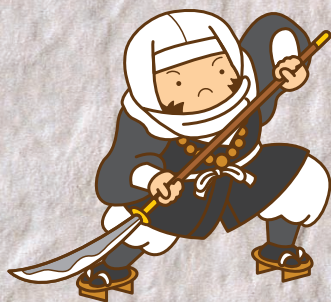
【春】壽都神社桜並木



【夏】壽都神社例大祭



【秋】弁慶岬



【冬】毛嵐と本町